

<1981>

真の仕事は仕事をなくすことにあり
(日本有機農業研究会 機関紙「土と健康」No.108)

税金を納めている私達が、堂々と使える活動基金が年間二、三百万円もあって、しかも議会、行政官庁、関係各方面への働きかけばかりでなく、地域社会への呼びかけもしやすいという立場が、その気になれば得られるとしたら、皆さんどうしますか？ コトは簡単です。最も身近な地方自治体（市区町村）の議会に人を送り出し、歳費を皆の公開運動資金として運用すれば良いのです。議員になった人は今まで通りのボランティア。騒音公害の選挙運動は不要。日頃の自分達の活動が周囲にどれ程評価されているかのバロメーター。地位や名誉に無縁の政策実現ただ一筋。本来社会的に解決されてい

真の仕事は

仕事をなくすことにあり



863-2423

熊本県天草郡五和町井手

中井俊作

TEL・FAX

0969-34-0054

又は 090-1082-8109

なければならぬ仕事にやむを得ず取り組んでいる実情の私達、する以上はしやすい立場を得た上で始末をつけたら身を引きます。長丁場になったら仕方がない、四年に一度交替します。市区町村議会の会期は年間三〇一六〇日位のものでしょう。自営業や主婦ばかりでなく学生やサラリーマンでも人によっては務まるでしょう。

要は皆の支え方。いつもの学習会メンバーは議案作成スタッフです。問題意識にあふれているところに役所からの情報収集などしやすくするのでから大車輪。ポイントが絞れますから、見当つけて役割分担を進めれば行政の調査、監督、一歩進んで立案、提言、力を合わせれば条例施行も円滑に。何よりも皆さん、想像してみて下

さい。頭痛の種の活動資金、年間に百万の桁で増えるのです。録音録画、手作り映画も編集できます。地域社会への情報提供手段は格段と増幅されます。大気・水質・食品などの環境汚染……身近で看過できぬ問題ばかりなれば、年齢、性別、職業、団体、思想、宗教の違いもこえられます。工夫できる課題も多い。物と人と情報の交換。還元の仕事です。われわれはこうするから行政はこうして貰いたい、という相互分担型のもので。しかし地方自治とは元来このようなりとりのもとにあってはじめて建前通り機能するのではないのでしょうか。

作る人と食べる人の距離が離れすぎたことが本会を生み出す社会状況を作りました。任せっぱなしが生んだ必然といえるでしょう。世の中のこと、ある線より先は人に任せざるを得ないにしても、任せっぱなしはお互いを誤たせます。といっていつも、何もかも、一人でする訳にはいきません。だから出来る時に、出来るだけ、無理なく分担する仕組こそが大切です。議員になった人ばかりでなく支える皆も地方自治の現場を知る。条例、法律などの運用にも自ずと通じるようになれば実生活にプラスとなつてはね返る。ひとつの社会運動に対して還元された税金を皆でどのように用いるか——これ位スッキリした話なら「私が引き受けよう」というボランティアもおられるのでは。

有機農業運動は、無定見に文明化されすぎた人間社会の在り方を問い直す最も民主主義的な運動、と心得る私の発言です。生存の基盤のモロイ都市が農山漁村を振り回す皮肉な現実、まずは都市部の人から端緒を開いて頂きたいのです。一刻も早く本会の存在が不用となつて解散して良いように。真の仕事は仕事をなくすことにある、と信じます。